

# 平成24年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号

平成24年8月30日  
岩手県病害虫防除所

## トルコギキョウえそ輪紋病について

### 1 発生状況

- (1) 平成24年6月、盛岡市玉山区の施設栽培トルコギキョウでえそ症状を呈する株がハウス全面に見られた(写真1、2)
- (2) 公益財団法人岩手生物工学研究センターにおいて2本鎖RNA網羅的検出技術(DECIS法)によりウイルス診断を行ったところ、アイリス輪紋ウイルス(Iris yellow spot virus: IYSV)が検出された。本ウイルスは今回が県内での初確認である。
- (3) トルコギキョウ栽培ハウス周辺の露地栽培ねぎについてELISA法によりウイルス診断を行ったところ、アイリス輪紋ウイルスが検出された。

### 2 病徴

症状は、葉の黄化、えそ斑点、えそ輪紋、茎のえそ条斑及び株の萎縮等であるが、品種によって異なる。

なお、トルコギキョウに感染する他のウイルスも同様の症状を呈する可能性があるため、病徴のみで本ウイルスによるものと断定することは難しい。



写真1 感染株と葉のえそ斑



写真2 花卉の斑入り症状

### 3 媒介種及び伝染

本ウイルスはネギアザミウマにより媒介され、その他のアザミウマ類による媒介は確認されていない。幼虫時に感染植物を吸汁することにより本ウイルスを獲得し、ウイルスを獲得した個体は、終生ウイルスを伝播するが、経卵伝染はしない。種子伝染、土壌伝染はしない。管理作業による汁液伝染の可能性は低い。

### 4 ネギアザミウマについて

ネギアザミウマはネギやタマネギの主要害虫であるが、寄主範囲は極めて広い。体長は1.0~1.5mmで体色は淡褐色や淡黄色など変異が見られる。

本種は雑草地やネギ類等の根ざわで成虫越冬する。成育期間は20℃では卵7日、幼虫・蛹13日の計

20 日間であり、夏期には2週間程度で1世代を経過する。岩手県での発生は6月～9月に多く(図1)、高温少雨の気象条件で多発生となる。

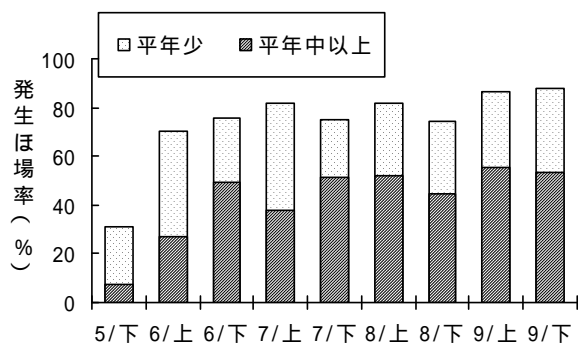


図1 岩手県のねぎほ場におけるネギアザミウマの時期別発生推移

## 5 感染植物

ユリ科をはじめ17科40種以上の植物で感染が確認されている。

<主な被害作物>

ユリ科：ネギ、タマネギ、ニラ、ニンニク等

リンドウ科：トルコギキョウ

アルストロメリア科：アルストロメリア

ヒガンバナ科：アマリリス、ユーチャリス

アヤメ科：ダッチアイリス

## 6 防除対策

- (1) ネギアザミウマの防除を徹底する。
- (2) 本病が疑われる株は、見つけ次第抜き取り、ネギアザミウマが寄生している可能性があるの  
で、ほ場外に持ち出し土中に埋める等処分する。
- (3) ほ場及び周辺の雑草はウイルスの獲得源やネギアザミウマの増殖源となるので、施設内外の  
除草を徹底する。
- (4) 施設栽培では、開口部に防虫ネットをはり、施設内へのネギアザミウマの侵入を防ぐ。
- (5) 栽培終了後は施設を密閉し、作物や雑草を枯死させてネギアザミウマの死滅をはかる。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】

TEL 0197(68)4427

FAX 0197(68)4316

この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。